

2011～2012年度 第1回クラブ国際奉仕・WCS委員長会議報告

国際奉仕・WCS委員会
委員長 古澤照明(豊中RC)

7月23日(土)13時30分より薬業年金会館で今年度第1回クラブ委員長会議(参加者数合計:112名)を開催しました。まず岡部Gより開会のご挨拶を頂き、その後支援方法の変更点について下記の説明がありました。

これまで、今年度のMGは東日本大震災支援をお願いしてきました。しかし、ロータリー財団は6月30日に被災地支援のMGを廃止し、さらに「ロータリー日本・太平洋諸島地震災害復興基金」も変更し、新たに「東日本震災復興基金日本委員会」を設立しました。申請方法については、プロジェクトが被災地区のニーズを汲み取っていれば被災地区以外からも申請ができ、手続きは申請書と見積書を添付すればよいと簡単です。さらに、クラブ単独での申請が可能で、海外パートナーがなくても申請でき、これまでできなかった建築物も可能です。申請地区やクラブ拠出金がゼロでも、必要資金の100%を基金からの補助金として申請できますが、被災地以外の地区またはクラブが申請する場合は現金を拠出することが望まれます。申請は2012年12月31日まで受け付けられますが、資金が枯渇した時点で終了します。申請にはガバナーと会長の署名が必要ですので、必ず地区経由で提出をお願いします。

なお震災支援プロジェクトの資金については、次の方法があります。

- ① 東日本震災復興基金の補助金と、当地区基金、各クラブ独自の資金、海外協力クラブからの寄付金を組み合わせる。



東日本震災復興基金に申請しない場合には、

- ② 地区人道的補助金委員会にDSGを申請し、クラブ独自の資金、海外協力クラブからの寄付金を組み合わせる。
- ③ 各クラブ独自の資金、海外協力クラブからの寄付金のみで実施する。

以上の申請や資金のご相談は、地区災害支援プロジェクトが対応します。

先般、被災地支援のMGが再開されるとロータリー財団から連絡がありました。被災地支援のMGにも、通常の規定が適用され、クラブ拠出金、DDF、海外協力クラブ、50%ルール等に関して、免除事項はございません。今後当委員会は、①国内や海外向けにDDFを使用したMGの推進、②国内外のプロジェクトの紹介、③複数のクラブによるプロジェクトへの参加要請等、本来のWCS事業に戻ります。今年度のDDFの予算は65,000ドルで、1件につきMGプロジェクト最大5,000ドルまで申請できます。

以上の報告後、川田地区財団法人道的補助金委員長からR財団補助金について、吉田地区副委員長及び上場地区委員からの活動報告、糸川地区委員からWCS基金会計報告があり、高島GEの講評を頂き、岩田PGの閉会挨拶で終了しました。

